何かがある楽しい3日間

みなかみユネスコエコパーク アウトドア感謝祭 9/27～29

道の駅水紀行館にて「みなかみユネスコエコパークアウトドア感謝祭」が開催されました。このイベントは、みなかみユネスコエコパークという人と自然の共生する環境を最大限に活かした「アソビ」の提供をコンセプトとして行われたイベントです。３日間で様々なアウトドアアクティビティ体験のほか、清掃ラフティング・カヌーツアーなど、自然を守り、活かし、広める催しが数多く行われました。



▲流木で作られたイベント看板

●会場


▲エコマーケット



▲募金箱


▲賑わう会場


▲ワークショップ

会場では、こども服などを無料で譲るエコマーケット、ヒノキの球果でストラップを作るワークショップ、地元ネイチャーガイドによる写真展、多数のキッチンカー出店などが行われたほか、ヨーヨーやチアリーディングのステージショーも行われました。

エコマーケットでは、こども服を譲り受けた方々が、自然保護活動のための募金箱に「きもち」としてお金を入れ、「いまあるもの」を大切にする活動に取り組んでいました。

●清流公園


▲バンジートランポリン


▲ちびっこアドベンチャー▶



利根川沿いの清流公園では、アスレチック体験ができる「ちびっこアドベンチャー」、地上から空中に飛び上がる「バンジートランポリン」などを楽しむことができ、多くの家族連れで賑わいました。

こどもたちはアスレチックの足場を慎重に進んで冒険体験を楽しみ、バンジートランポリンではすぐにコツをつかんで空中で回転するなど、自然の中で体を動かす楽しさを体感しました。ワンコインで楽しめる体験が多く、ガイド付きで安全に遊びながらみなかみの自然を満喫していました。

写真で見る

まちの話題

= TOWN TOPICS =

●アウトドアアクティビティ体験



▲バギー体験



▲ラフティング体験

通常価格の半額以下の特別料金で行われた、アウトドアアクティビティ体験では、ラフティングをはじめとした様々なアクティビティが３日間を通して提供されました。

バギー体験をした方の感想

「スキー場からの眺めが良く、急な斜面をバギーで走る爽快感が楽しかったです。手軽にみなかみ町の自然を体感できて良かったです。」

ラフティング体験をした方の感想

「体験コースということでしたが、思っていたより長いコースで、ツアー内容も充実していて大満足でした！ガイドさんが気さくな方で面白かったです。最初の安全説明もわかりやすく、安心して楽しむことができました。」

●花火大会



イベント２日目の 28 日夜には、約 1,000 発の花火が打ち上げられ、会場からは大きな歓声が上がりました。みなかみユネスコエコパークという素晴らしい環境でアウトドアアクティビティができること、またそれを支えるすべての方々への感謝が詰まった大輪の花が利根川上空に打ち上げられました。

●投げ餅



夕方と夜の２部制で行われた投げ餅では、アウトドア連合会のスタッフがワゴン車の上に積まれたラフティングボートに乗り、こども向けお菓子や町内事業者が協賛品として提供したバウムクーヘン、加工肉製品、町内スキー場のリフト券などが投げ餅として振る舞われました。

●運営スタッフコメント



▲飯島拓海さん

みなかみ町の自然環境、地元住民の方々、アウトドア業界の方々、この町でアウトドア事業ができることへの感謝を表現できたイベントになりました。今後も私たちは、アウトドア業界へのさらなる集客や認知度向上、ひいては利根川源流の町みなかみの魅力度の向上を目指していきます。

みなかみ町役場 （６２）２１１１　水上支所 （７２）２１１１　新治支所 （６４）０１１１

温泉街をめぐり、これからのみなかみを見つけ出す

廃墟再生マルシェ 9/22～23

廃墟再生マルシェは、2021年からスタートしたみなかみ町、群馬銀行、オープンハウスグループ、東京大学大学院の４者が連携して進める「産官学金まちづくり事業」の一環として始まった社会実験イベントです。３回目となる今回は、２日間で約4,500人が訪れ、湯原の温泉街は大いに賑わいました。

今回も東大チームが中心となって綿密に企画を練り、会場作りや出店者との調整など、様々な事前準備を積み重ねて、みなかみの将来性を感じさせる魅力的な「まち」が作り出されました。

5つの「ヒロバ」と第1回から今回までの会場エリア



廃墟再生プロジェクトでは、旧一葉亭の再生だけではなく、温泉街全体を面的にアップデートしていくため、核となる５つの「ヒロバ」を定めています。そのうちの１つである「忠霊塔公園・旧蒼海ホテル周辺」が今回の舞台となりました。回を重ねるごとに再生を手がけたエリアが拡大し、次世代型の温泉街まちづくりの輪が広がってゆく様子が読み取れます。

「こうえん」「はしづめ」「まちかど」「うらろじ」の４つの会場で構成された今回の廃墟再生マルシェでは、来場者にみなかみの自然と食と体験を楽しんでいただきながら、各会場や温泉街を回遊していただくことを目指しました。

東大チームのコメント



水野謙吾さん

旧ランドリー工場や旧オーレの手作業での会場作りが印象に残っています。元々あったものに新たな価値が与えられ、再生していく現場に立ち会えました。



元吉千遥さん

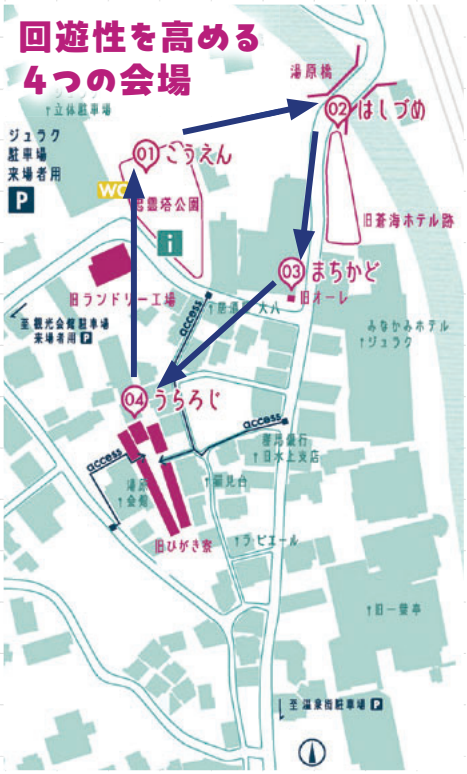
会場作りを進める中で、地元の方にとっては当たり前のように思える建物でも、旧オーレのように潜在的な面白さや新しい発見があることに気づけました。



小林夏月さん

来場者の方々に回遊してもらえるように出店ブースの配置を考えました。各会場のコンセプトを来場者の方々に感じ取ってもらえたら幸いです。

回遊性を高める4つの会場



写真で見る

まちの話題

= TOWN TOPICS =

01 こうえん

忠霊塔公園と旧ランドリー工場からなる「こうえん」会場では、日中はお昼ご飯を食べたり、ワークショップを楽しむ家族連れで賑わい、夕方には地元の方々がビールを片手にベンチでくつろぐ姿が見られました。20年以上倉庫となっていた旧ランドリー工場は、部分的にリノベーションを行い、おしゃれなカフェと旧一葉亭の再生のあゆみを展示したギャラリーへと生まれ変わりました。


忠霊塔公園



旧ランドリー工場外観


旧ランドリー工場内観


スプーン作り体験


観光協会ワークショップ

02 はしづめ

湯原橋のたもとから旧蒼海ホテル跡の一帯に作られた「はしづめ」会場では、来場者の方々が利根川の川音を聞き、谷川岳を眺めながら、ティータイムを楽しみました。


利根川の音を聞きながらティータイム


はしづめ夜


ちょっとひと休み

03 まちかど

かつてはアイスクリーム屋さんだった「オーレ」は長い年月を経て、街角で人々が出会うカフェに生まれ変わりました。古さと新しさが調和した内装が東大チームの手によって生み出されました。


旧オーレ外観


旧オーレ内観


旧オーレ内観

04 うらろじ

第1回の廃墟再生マルシェから会場となっている旧ひがき寮では、2024年6月から、「まるごとアトリエプロジェクト（仮）」がスタートしました。ものづくりやアートなど、モノ・コトが生まれる場所として旧ひがき寮を活用する取り組みが進んでいます。廃墟再生マルシェ当日は、来場者が部屋のふすまの絵付けをするワークショップを開催しました。


トルコランプ


旧ひがき寮


自家製ドライフラワー


ふすま絵付け

みなかみ町役場 ☎（６２）２１１１　水上支所 ☎（７２）２１１１　新治支所 ☎（６４）０１１１

旬の味を楽しむ

リンゴのおいしい季節 11月

町内のリンゴ収穫が最盛期を迎えています。現在、町のリンゴ販売生産者は約60戸、約74haで県北部の気候風土に合ったリンゴ品種が栽培されています。もともと利根沼田地域では養蚕が盛んでしたが、昭和30年代から養蚕などに代わり、リンゴの生産を行う農家が増えてきました。作付面積順に、ふじ、ぐんま名月、陽光、秋映、新世界と続き、さらに20種類以上の特徴ある品種が育成されています。

毎年秋にはたくさんの方がリンゴを求めて訪れ、もぎ取り体験や直売所が賑わいをみせています。昨年は凍霜や高温の被害により出来映えがよくありませんでしたが、今年は例年並みの収穫量が見込まれています。この時期だけの美味しいリンゴを食卓にお届けできます。

●知って得するりんごの特徴　❶旬の時期　❷交配組み合わせ　❸大きさ・形

ぐんま名月



❶ 10月下旬～11月中旬
❷「あかぎ」×「ふじ」
❸ 約300g、円錐形

甘味が強いことで人気のあるぐんま名月ですが、実は甘味だけでなくコクもあるんです。群馬県産のぐんま名月は気候や栽培方法などの違いから一番糖度が高いようです。

スリムレッド



❶ 10月下旬～11月中旬
❷「ふじ」×「あかぎ」
❸ 約180g、円筒形

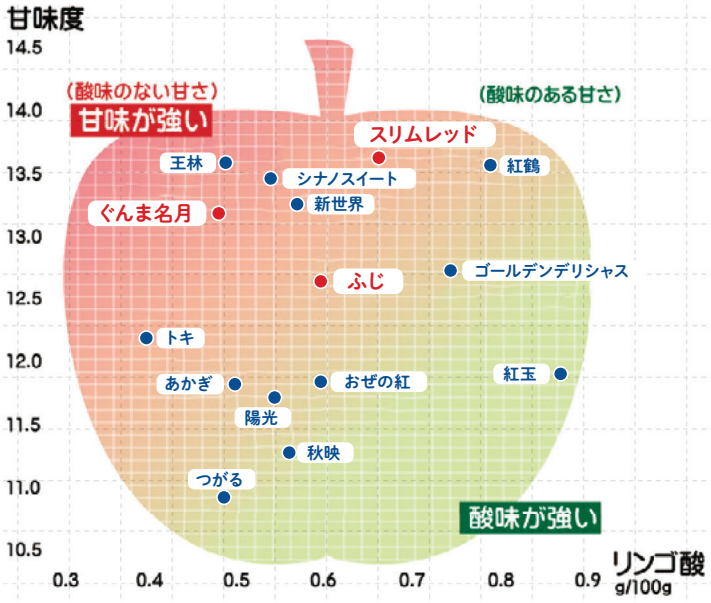
スリムで小柄なスリムレッドは皮と果肉が柔らかいため皮付きで食べるのに向いています。皮付きで食べるとポリフェノールや抗酸化能が約1.3倍多く取れます。

サンふじ



❶ 11月中旬～12月上旬
❷「国光」×「デリシャス」
❸ 約300g、円～長円形

最も生産されているふじは、果汁が多く、甘さと酸味のバランスが良いのはご存じのとおりです。袋をかけずに栽培し、太陽をたくさん浴びて育つふじをサンふじと呼んでいます。





▲赤く色づく町内産りんご

群馬県産農産物について
ぐんまアグリネットHP ▶

写真で見る

まちの話題

= TOWN TOPICS =

大学生が地域全体を様々な視点から分析

みなかみ町地域診断成果発表会 8/23

慶應義塾大学医学部２年永田みのりさん、同薬学部６年井上真理さん、同看護医療学部１年伊藤真由さん、群馬大学医学部５年内山夏鈴さんの４人が、地域全体を医療だけでなく、多角的な視点から分析する「地域診断実習」を行い、町をより良くするためのプランを提案しました。

町内でのフィールドワークを通して、事前調査で立てた仮説を丁寧に検証していく中で、地域とのつながりを大切にしている移住や施策が存在する一方、「少子化」が諸課題に大きく関わっていることに気づいた４人は、もともと小中学校で行われていた地域学習や、少子化だからこそできる児童・生徒一人一人への手厚い教育の強みを活かし、「ひとを磨く町みなかみで行う、こどもみなかみ教室」というアクションプランを提案しました。



▲温泉街でのフィールドワーク



▲聞き取り調査



▲地域診断成果発表会

●アクションプラン「ひとを磨く町みなかみで行う、こどもみなかみ教室」とは

児童・生徒がテーマを選び、大学生との学習や地域の方へのインタビューでテーマを詳しく学び、同級生や地域の方へ教えるというプランです。分野や年齢の垣根を越えて、「教わる」のではなく「教える」ことで学びが深くなり、将来的にこどもたちがみなかみ町に戻ってきたいと思える契機となることが期待されます。

みなかみ町役場の業務を体験

利根商業生徒がインターンシップ 9/12

環境課では、奥利根アメニティーパークにて、ペットボトル・カン・ビンの分別を体験し、キャップとラベルを外して中を洗うなど、ごみを出す前の「ひと手間」の重要性を学びました。見学では、すべての粗大ごみを燃やすだけではなく、金属と可燃部分を分けるなど、資源を無駄にしない工夫がされていることを学びました。

選挙管理員会では、選挙で使用する備品の点検と補充を行い、実際に投票所で使用される投票箱の点検や、鉛筆の本数確認などの作業を行いました。また、選挙制度の説明を受け、若い世代が投票することの大切さを学ぶとともに、政治への関心を持つことの重要性を学びました。

（本記事はみなかみ町役場総務課秘書・広報係でインターンシップを行った利根商業高等学校２年倉澤凜王さん、西山歩実さん、馬場鱒之介さん、藤井結月さんが作成しました。）



▲ペットボトルを分別



▲ビンを分別



▲細かい備品までチェック



▲選挙備品の点検



▲カンを処理機械へ投入

長年にわたる教育功労
山岸不二さんに瑞宝双光章 9/18

内閣府より高齢者叙勲が発令され、須川在住の山岸不二さんが「瑞宝双光章」を受章し、田村教育長より勲記・勲章の伝達が行われました。

山岸さんは、昭和35年4月に利根村立東小学校平川分校に勤務されて以来37年の永きにわたり教育現場でご尽力されました。

山岸不二さん（88歳）平成9年3月に新治村立猿ヶ京小学校長を最後に定年退職。退職後は、にいはる幼稚園園長など歴任され、現在はグランドゴルフで選手として各大会に出場されるなど、ご活躍されています。



▲山岸不二さん

恒久の平和を願い
みなかみ町戦没者追悼式 10/8

三東メモリアルホールセリオ月夜野会館において、令和6年度 みなかみ町戦没者追悼式が開催されました。当日は、町内3か所の忠霊塔より戦没者の御霊をお迎えし、遺族の方々をはじめ約100名の参列者が、戦争により亡くなられた犠牲者のご冥福をお祈りするとともに、悲惨な歴史が繰り返えされないよう「恒久平和の実現」に向けて祈りを捧げました。



▲遺族による御霊送り

国道17号県境付近の整備を求め
総会開催、要望書を提出 9/24

国道17号群馬・新潟県境地区防災事業促進期成同盟会総会がみなかみ町で開催されました。

この期成同盟会では、国道17号県境付近における大型車のすれ違いが困難な幅員の狭い区間や、急カーブ等の危険箇所について整備を求める活動を新潟県湯沢町と連携して実施しています。

総会では、群馬・新潟両県選出の国会議員、県会議員や国土交通省職員に要望書を手渡しました。



▲開会挨拶をする阿部町長

税の啓発活動で貢献
笛木太弘さんに全法連功労者表彰 10/1

税の啓発や租税教育、税の分野での様々な社会貢献活動を推進している全国法人会総連合から、猿ヶ京温泉在住の笛木太弘さんが功労者表彰を受賞しました。

笛木さんは現在、沼田法人会副会長として公平で健全な税制の実現のため、小中学生の「税の標語」運動や「税の絵はがき」コンクールをはじめとした税の啓発活動に尽力されております。



▲笛木太弘さん（左）、阿部町長（右）

写真で見る

まちの話題

= TOWN TOPICS =

防災・減災の心構えや知識を学ぶ

自主防災組織研修会　10/5

みなかみ町中央公民館にて、34行政区82名の方々が防災・減災をテーマに基本的な心構えや知識を学びました。町の災害対策についての意見交換や避難所用備蓄品の展示、「アルファ化米」の試食体験も行われました。

災害から町民の命と財産を守るため、「自助」・「共助」・「公助」の連携強化に取り組み、「誰ひとり残さない」安全安心な町になるよう防災対策の強化を進めていきたいと考えております。



▲地域防災マネージャー田村一也さんによる講演

更なる防災・減災対策の強化

小型車両系建設機械実践講習会　10/12

6月・9月に特別教育を修了した方々が参加し、より実践的な重機の操作や知識を身につけるための操作練習を行いました。この講習会はB&G財団による支援を受けて行われたもので、今後も町では同財団の支援で配備された油圧ショベル、スライドダンプ等の機材を活かし、更なる防災・減災対策の強化に取り組んでまいります。







▲集合写真と重機の実践講習

みなかみ町について深く考え、中学生が一般質問

令和6年度　みなかみ町中学生議会　10/16

役場本庁舎議場において、みなかみ中学校の生徒代表者6名が参加し、みなかみ町中学生議会が開催されました。

小林洋議長の進行により議会本会議をそのまま再現し、議員席に座った生徒代表者は、事前に準備した一般質問を具体的に発言して回答を求め、阿部町長や田村教育長、担当課長はそれに対して丁寧に答弁しました。また、中学生議会はライブ配信され、みなかみ中学校の3年生や保護者が視聴しました。

一般質問／中学生議員名簿（敬称略）

●環境・農業・くらしについて
　佐藤愛月

●福祉・医療について
　芳賀衣織

●子育て・教育について
　角田日彩・林大義・鈴木音羽

●観光・まちづくりについて
　原澤結愛













地域おこし協力隊の活動　NPO法人奥利根水源地域ネットワーク　伊良皆高史 さん

ついに…協力隊最終年度・最後の広報掲載となりました！３年半、早っ‼今年度も、昨年から続いているみなかみ町・三菱地所・日本自然保護協会の三者協定に基づく事業の一つである、『人工林の自然林への転換』のための伐採・搬出を中心に活動しつつ、これまで同様、町の林業研修や林道の倒木処理などの際には、農林課林業振興係のお手伝いをさせてもらっています。

思い返せば、３年半前の移住当初は友人知人は皆無でしたが、森や木を通して多くの方々との繋がりができ、農林課をはじめ役場職員の皆さま、小学校やこども園の職員の皆さま、そして何より地域の皆さまに良くしていただいているおかげで、家族全員みなかみ暮らしを満喫させていただいています。皆さま、本当にありがとうございます‼

年度いっぱいで任期終了となりますが、任期後も町に居座り（骨を埋める気満々です）、自分なりに森や木に向き合い、『人と木』のより良い関係作りを目指した事業を始める予定ですので、今後とも家族共々よろしくお願いいたします‼



▲9月に開催されたチェンソー取扱講習の様子



▲ケヤキの樹上伐採の様子

第66号

まちづくり協議会だより

問 まちづくり協議会事務局（企画課）
0278（62）2280

新治支部の活動（伊賀野遊休農地活用事業）

農地として利用されなくなった遊休農地を「伊賀野の花畑」として耕作し荒廃を抑えつつ、ほうき草や小菊等を栽培することで町内外より誘客しています。また、訪れた方々を花畑のみでなく町内の観光施設等にも立ち寄ってもらえるようパンフレット置場を常設し、みなかみ町観光協会の協力により「MINAKAMI Oasis スポット」の一つとして飲水設備も新たに設置されました。

どなたでも楽しめる花畑を目指し、毎年11月第１日曜にはほうき作りイベントも開催しています。多様なカラーで楽しめる花畑をぜひこの機会にお楽しみください。



▲くりっ子ひろば



▲伊賀野の美味水



▲伊賀野の花畑